射水市立東明小学校学校だより　「日本一幸せな学校」

平成２９年１２月１日

## 思いやりとコミュニケーション

朝、校舎を一回りしている際、体育館に体操服が置きっぱなしになっているのを見付けました。拾って名前を確認します。胸の刺繍に〇〇（実際には名前が書いてあります）とあります。４年生かな？心当たりのある名前だったので届けてあげようと思っていたところ、後ろから４年生の男の子に声をかけられました。「誰のですか？」私の様子を見て、落とし物を拾ったのだということを瞬時に悟ったようです。「〇〇と書いてある」と答えると、一緒にいた４年生の女の子が名前を確認し、「届けてあげます」と言います。そして、私の手から体操服を受け取り、足早に教室に向かって階段を上っていきました。私の発した言葉はたった一言なのですが、とてもうれしく心温まる会話でした。

続いて１年生の教室に行きました。紙くずが落ちていたので拾いました。側にいた女の子が、さっと私の手から紙くずをもらい、ごみ箱に捨てに行きます。ここでは全く会話がありませんが、心が通じたという思いでうれしくなります。

次に２年生の教室に行きました。ポケットティッシュが落ちています。拾い上げると、男の子が「ありがとうございます」と言って私の手から受け取ります。ここでも私は一言も発していませんが、やはりうれしい気持ちになります。

多くを語らずともコミュニケーションをとれることに幸せを感じます。家庭でもこのような温かいコミュニケーションの場に接しているのだろと思います。コミュニケーションの基盤は思いやりだと思いました。このような環境で育っている子供たちは幸せです。

言葉巧みに表現できることももちろん大切ですが、相手の様子を観察し、相手の身になって会話を進めることがもっと大切だと思います。昨今、教育の場においても、国際化社会に向けてコミュニケーション能力の育成が重要であるとされています。そこでは、「思いやり」を欠いてはならないという思いを強くしました。

〈６年国語科の授業
「場面に応じた言葉を使おう」〉